OPINION

学部教育における「医は仁術」

仲谷　達也*

「医は仁術」は出典を辿れば8世紀にまで遡る古い言葉である．われわれの世代には馴染みの深い言葉で，診療報酬不正請求に関するマスコミの記事などでは，よく「医は算術」などと揶揄されて用いられる．私は医学部5回生の実習で「医は仁術」を多用する．10年前まで，この言葉を知らない学生は，ほぼ皆無であった．しかし，最近では3人に1人ほどの医学生からは，この意味を「知らない！」，これ自体を「聞いたことがない！」と言われて，私はしばしば驚かされている．

この言葉を医学教育で用いるのは，医療行為を通じた医師の社会貢献では「患者とその家族の安心と満足」を第一の命題とし，医師の責務では「医師たる者，自分の利益を顧みてはならない！」を最優先すべきである，との私自身のモットーを，学生諸君に理解してもらうのに便利だからである．

自分の利益を顧みず，患者と家族の安心・満足を追求する医療は，まさに「医は仁術」の実践にほかならない．このことは若い人たちにも容易に理解可能である．しかし，医師の自己犠牲を強要しているように早とちりする学生もいる．

ここからが話のポイントである．

私たち医師は，決してボランティアで医療行為を行っているわけではない．医師はれっきとした職業で，医師自身もこれを生業として家族も養っていかなければならない．

* 大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学

2026/11/11 09:28:38

「医は仁術」を実践するには，医師が現在の生活において物心両面で満たされ，将来にわたり身分保全されていることが前提となる．この前提条件が整ってこそ，自分の利益を顧みず患者と家族の安心と満足を最優先に，日々医療を行うことができるわけで，したがって，私と学生との話し合いのほとんどは，“前提条件”が担保されているか否かに費やされている．私は手練手管や，各種資料を用いて説得する．具体的な内容は紙面の関係で割愛するが，話し合いの最後は全員で「医師が患者・家族から感謝される」，この意義について議論する．締めくくりの私から学生への問い，「医者以上に，または医者と同じ程度，頻回にそして強く感謝される職業を挙げよ」に正解した学生は皆無である．

果たして「医は仁術」は患者・家族のためであり，そして医師一人ひとりが幸せなドクターライフを実践するためであることを理解してくれた学生はどれくらい居るのであろう？ 貝原益軒が生きていると「医は仁術」を誤って使用しているとの御叱りを受けるかもしれないが，使用目的に免じてお許しを請う．

2026/11/11 09:28:38